

ニューズレター雪氷北信越

No.66 1999年4月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<案内>

- ・第12回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会 (5/15)
- ・支部見学会(富山大学の雪氷研究)(5/14, 15)

<報告>

- ・新潟地区 積雪調査法講習会(2/20)
- ・新潟地区学習会(3/3)
- ・石川地区学習会(3/16)

<その他>

- ・「雪氷北信越」の機関一括送付と、「ニューズレター雪氷北信越」の電子メール配信について(会員の皆様へのお願い)

<案内>

第12回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

日時：1999年5月15日(土) 11時～17時30分

場所：富山大学(富山市 五福 3190)

理学部 2号館, 3階 4番および7番教室

参加費：無料

予稿集：発表予稿集掲載の「雪氷北信越19号」を当日配布します。

(日本雪氷学会北信越支部会員：無料, 非会員：1000円)

なお、終了後に同じ階の3番教室で懇親会を予定でしています(会費未定)。

参考：会場への交通

JR利用の場合

富山駅からは駅前の路面電車で富山大学前行きに乗車, 終点で下車。電車の進行してきた方向に進むと大学の正門です。正門からメインストリートをまっすぐ進むと突き当たりが図書館です。図書館の手前の左側4階建ての建物が理学部2号館です。電車の終点から徒歩5分。

車の場合

富山インターから国道41号線を富山駅の方に直進, 城址公園の手前, 全日空ホテル

(白色の高層ビル)のある交差点を左折すると大学前に通ずる旧国道8号線です。途中から電車と平行して走ります。土曜日なので駐車場はありますが、見つからない場合は工学部の駐車場をご利用ください。

< 案内 >

支部見学会(富山大学の雪氷研究)

日時:1999年5月14日(16時-18時,15日9時-10時40分)

場所:富山大学理学部2号館3番教室

内容:低温室,低温室での諸実験(人工雪結晶の観察),スケートのバンク効果の実験,復氷実験,貯雪実験(地共研),雪発電装置,過冷却の実験など(両日とも同じ内容ですからどちらか一方にご参加ください)

申し込み:富山大学対馬 電話0764-45-6646,ファクス45-6549

< 報告 >

新潟地区『積雪調査法講習会』

'99年2月20日(土)、新潟地区積雪調査法講習会が科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所において予定通り実施された。参加者は20名となり定員を4名を上回った。内訳は非会員1,団体会員4,学生15名であった。当日の積雪は95cmと平年値よりやや少ないものの実習には十分な積雪であり、珍しく新雪も10cmあった。天候は午後からあられ混じりの雪が降り、講習にふさわしい天候であった。午前には講義で、積雪の測定法と測定器の取り扱い方の指導があり、雪形と積雪の関連の講義も行われた。午後は野外実習を行い、雪崩事故者を発見するための雪崩ビーコンの操作実習も昨年に引き続き行われた。講師陣は遠藤八十一支部長、和泉薫氏、納口恭明氏、河島克久氏、竹内由香里氏の5名で、熱心で、親切的な指導は好評であった。なお、良好な講習環境を提供して下さった長岡雪氷防災実験研究所東浦所長と所員の山田、五十嵐両氏に深甚の謝意を表します。1990年以来、この講習会を定員制にし、高密度の指導体制をとってから9回目となり修了証交付者は延べ130名に達した。毎回受講者からアンケートをとって、5段階評価で4.5を得ており、一定の評価と信頼性を勝ち得ているものと自己評価している。

(田村理事 記)

< 報告 >

新潟地区学習会

新潟地区では、長岡雪氷防災実験研究所で、3月3日(水)13:30~17:00『地の果てパタゴニア』ならびに『地理情報システムへの誘いー雪氷学を例としてー』と題して学習会を開きました。講師の安仁屋政武先生(筑波大学地球科学系)は、前半の演題では、1980

年代から5回にわたり南米パタゴニアの学術調査を行い最近執筆された「パタゴニア 氷河・氷河地形・旅・町・人」に基づき南米パタゴニアの魅力、氷河・氷河地形を語っていただきました。

後半の演題では、地理情報システムの入門とパタゴニア氷河・氷河地形の研究ならびに北陸農試で行われた日本の積雪分布の事例をその応用の好例として紹介されました。両者の講演とも好評で15人が出席しました。なお、学習会終了後講師を囲んで懇親会を行いました。

(山田理事 記)

< 報告 >

石川地区学習会

石川地区では、金沢大学工学部で、3月16日(火)15時30分~17時に「氷物性の七不思議」と題した学習会を開きました。講師の河田脩二先生(金沢大学理学部)は、30年間にわたる氷の固体物理学的研究を通して、未だに解明されていないテーマを列挙され、それぞれを分かりやすく解説されました。特に、氷の誘電率データから電気伝導度表示の理論的説明の問題や添加物による氷結晶の欠陥の問題等の身近でありながら学問として未だに進展中のテーマを興味深く話されました。尚、参加者は8名でした。

(村本幹事 記)

< その他 >

「雪氷北信越」の機関一括送付と、「ニューズレター雪氷北信越」の電子メール配信について(お願い)

支部会員各位には日頃より支部活動に対しご理解とご協力をいただきまことにありがとうございます。お陰様で当北信越支部は活発な活動を続けておりますが、それだけに出費も多く、支部の財政は逼迫しております。1999年度予算案でも、当期収支では約30万円の赤字が見込まれており、何らかの手だてを講じなければならなくなっています。

そこで、支出削減の方策として、編集担当で標記の二つの案を作成、試行することにいたしました。支部の窮状をご理解いただき、この案にご協力下さるようお願いいたします。

(社)日本雪氷学会北信越支部 支部長 遠藤八十一

1. 「雪氷北信越」の機関每一括送付

これまでは「雪氷北信越」をそれぞれ個人宛に、所属機関または自宅の住所でお送りしてきました。今年5月発行予定の「雪氷北信越」19号では、2人以上の会員(送付先が所属機関である会員)がおられる機関については、原則として人数分を一括し、配布用のリストを添付してお送りします。受け取られた方はお手数でもリストに従って機関内の会員への配布をお願いします。

なお、すでに昨年発行の「雪氷北信越」18号でも一部の機関の方々をお願いしましたが、快くご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

この方式による経費節減を進めるためには、複数の会員がおられる機関の方で、現在の送付先が自宅の方には、送付先を所属機関に変更して下さると助かります。この点についてはあらためて個別をお願いいたしますが、その際にはできるだけご協力下さいますようお願いいたします。

2. 「ニューズレター雪氷北信越」の電子メール配信

ご希望の方には、これまでのような「ニューズレター雪氷北信越」の印刷物での配布に替えて、電子メールによる配信を行います。詳しい要領は下記の通りです。電子メールによる配信を希望される方、了承して下さる方は、お手数でも編集担当 (met@inada.affrc.go.jp) まで、なるべく電子メールにてお知らせ下さい。また、配信方式の案についてのご要望も合わせてお聞かせ頂ければ幸いです。

なお、特別会員、賛助会員、購読会員については、従来どおり印刷物として配布します。

電子メールによる配信方法（案）

記事は基本的にメール本文のアスキーテキストで送信します、添付ファイル方式は採りません。このため、添え字や機種依存文字等の表示ができません。添え字についてはそのままとし、わかりにくい場合には慣用表現や脚注等で対応します（例： H_2O $H2O$, m^3 m^3 ）。機種依存文字については、文意が変わらない範囲で対応する文字や単語に置き換えます（例：(1), ☎ 電話）。また、いわゆる半角カナは全て全角に変換します（例：「かか」 「カタカナ」）。

図表の掲載が必要な場合には、画像ファイルをメールに添付します。画像フォーマットは GIF または JPG（圧縮効率によって適宜選択）、添付形式は Base64 を考えています。

桁そろえのタブやインデントはスペースで代用します。この際、いわゆる半角英数字の幅が 2 バイト文字の半分である等幅フォントによる表示を想定して、スペースを挿入します。

メールは個別送信で、メーリングリストの方式は用いません。編集部宛ての問い合わせ等が全会員に送付されてしまうミスを防ぐためです。

なお、電子メール配信では、現在 1 週間程かかっている印刷・郵送行程が必要ありませんので従来よりも最大約 1 週間程度早くニュースを届けることが可能になります。

なお、次号のニューズレターは1999年6月10日発行予定です。こちらの原稿は5月20日頃までにお送り下さい。

日本雪氷学会北信越支部ニューズレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 水田利用部 気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: met@inada.affrc.go.jp

